

まがって、シャン!

目次

002 プロローグ

006 生き甲斐の伝道師!?

第1楽章 音楽、そしてテレビを語る

- 011 音楽の話をして
- 018 ビバ! 1億総歌手時代
- 022 作詞作曲家を志す方々に
- 025 私の作曲方法
- 026 私の作詞方法
- 028 データベースという魔物
- 030 テレビ番組もシステム化!?

第2楽章 自叙伝的身の上話とヒット曲秘話

- 033 母、中村八重の話をして
- 037 デビュー曲『今は幸せかい』秘話
- 039 佐川満男、カムバック
- 040 イッパツだけ
- 041 中村泰士オリジナルメロディーライン誕生!
- 045 『喝采』レコーディング秘話
- 050 幸福と苦悩の狭間で
- 054 うつ!?
- 057 『北酒場』誕生秘話
- 059 『そして…めぐり逢い』誕生秘話
- 062 五木ひろしの歌唱力は本物だった

第3楽章 ヒューマンエラー

- 065 人は間違いをする
- 067 人々は間違いをする
- 070 知らぬが仏
- 072 浮いた話をします
- 076 島原半島「ECO象徴大仏建立」の夢
- 081 We are Asian
- 084 動け! 奈良
- 086 守られている!
- 089 今更だから、世間に言っておきたい
- 091 お節介ジジイの視点
- 094 人としての運命

最終楽章 キュートナーのすすめ

- 097 あるバーカウンターで
- 101 私は自分が大好きです。あなたは?
- 104 運命は過酷だ
- 107 男子の本懐ここにあり
- 109 人間力
- 112 はじめに人あり
- 114 キュートナーという考え方
- 119 ときめきとひらめき
- 123 生き甲斐の伝道師として

136 エピローグ ~名刺がわりの懺悔です~

セットCD収録曲

- 138 ①「君にありがとう」
- 139 ②「京みやび歌」
- 140 ③「島原発…日本へ」

141 「京みやび歌」について
「祇園女御」とは



生き甲斐の伝道師!?

「わしはかれこれ90年、中村の家に、なぜかずっとおる『布袋』じゃ。信仰心とは関係なく、置物として飾られたでの〜」

「八重さんはそりゃ〜、可哀想じゃった、大黒柱の亭主に先立たれ、5人のまだ幼い子供を抱えてのう〜、仕方なく庭のある家を手放し、奈良県は王寺町の大和川から近い、そりゃ〜古い、雨漏りもする、屋根も破れた長屋で暮らすことになったんじゃ」

「ある日のことじゃ、7歳の泰士が突然わしに話しかけてきたんじゃ。兄ちゃんは19歳、間3人は姉妹、かあちゃんは、当然皆を養うために働いていて留守。幼い泰士は寂しかったんじゃのう。」

♪♪♪♪ドンスドストツ 布袋じゃ スパパーン♪♪♪♪

♪♪♪♪ドヒヤード♪♪♪♪

☆*:..o. o(≧▽≦)o ..:*☆

☆*:..o. o(≧▽≦)o ..:*☆

それがどうじゃ、65年たった今、再び泰士がわしに話しかけてきた。それも突然。わしのからだを愛おしそうに見つめながらじゃ。照れくさいぞ〜。けど、嬉しかった。わしと話しておった幼い日のことを懐かしく思い出したんじゃろう。

けど、どうやら懐かしいだけではなさそうなんじゃ。『生き甲斐の伝道師』とかなんとか、聞いたこともない言葉を語りはじめよった。『わしは布袋、神様であるぞ!!』

そう言おうとしたが、泰士の真剣な顔を見てやめた！ さてどういうことになるか、見守ることにしたんじゃ。

♪♪♪♪ドンスコスコチャカスコドン♪♪♪♪

自ら招いた波瀾万丈の人生、人の百倍も現実社会を生きた感がある泰士がいったい何を話すのか？ お手並み拝見といこうかのう!!」

『喝采』レコーディング秘話

第14回日本レコード大賞 大賞受賞作品
1972年(昭和47年) 33歳

歌：ちあきなおみ

もしもちあきなおみさんが今も現役の歌手でいてくれたら、美空ひばりさん亡き後、日本の「歌謡曲」と言われる音楽シーンは今とは違っていただろうと思っている。

現在、演歌と呼ばれるジャンルはその昔「艶歌」(ツヤウタ)と書かれた時代があった。歌唱する時、歌の内容を「演じて唄う」演歌と、歌の内容を「艶やかに唄う」艶歌が存在していた。もちろん、両方ともプロの領域になれば同じように歌唱力が必要だ。

私は未だに「艶歌」が好きで、今でも酔っ払った時は、昭和歌謡の中から自分が「艶歌」だと思う作品を唄う。

私は「艶歌」を唄わせたらちあきなおみさんが日本一だと思っている、俗な表現をすると「色っぼい」、そして「深い」のだ。

彼女の初期のヒット曲の中に『雨に濡れた慕情』がある。私はその歌を唄っている彼女をテレビの音楽番組でたまたま見た。そして心に衝撃が走った。今もその時の胸の熱さは

うつ!?

恐れていたその時はきた。

『喝采』をはじめ多くのヒット曲に恵まれ、作詞作曲家としての名声と、国民的大ヒットTV番組「スター誕生」の審査員として全国の人々の認知を受け、家庭的にも恵まれ、当然金銭面でも人並み以上の収入があった。

なのに、それなのに、私の心には喜びも充実感も全くない。「心の病」。やはり、そうだった。

TVプロデューサーに指摘され、周りの人々にも「俺、おかしいか?」と何となく聞いてみるが、「大先生になって彼は変わった」との判断。

「やっぱり偉くなると、人は変わるよね」

その印象と思い込みが先になり、「おかしいか?」という私の質問に対する答えはなかった。

「病院に行くしかない」

知り合いに、精神科医として実績のある先生を紹介してもらうことができ、診察を受けることになった。

予約当日、診察受付カウンターに事務の若い女性がいた。桜田淳子さんと同じ秋田県の出身で大ファンらしく、「中村泰士さんですよ〜。ウア〜!! サインください」

そのまま帰りたかった。しかしそうもいかず、サインをして、待合室へ。



友人の石川 豊氏

男ふたりで
からだらべ
自称「ナルちゃん」です

キュートナーのすすめ

最終楽章

あるバーカウンターで

「お前、今仕事やめてどうすんの？ 俺に相談しろと言うたやる、俺なんかお前の何十倍も我慢してきたで！」

会社をやめたいと言っている青年を相手に延々、そいつがひとりで話し続ける!!

そばで聞いていると、だんだん腹が立ってきて、全く知らないヤツじゃないので、

「君、話が長い。この子が会社をやめたいのは、その説教と長話が原因や!!」

とつい言ってしまった。とっ！ 突然やめると言っていた青年が立ち上がり、

「おおきに、やめたい原因わかりました！ スンマセン、先に帰ります!!」

と言ってドアの方へ。驚いたことに長話をしていた先輩が、「ちょっと待て、この俺が原因か！」

なんと後輩の手を握りしめ、「ごめん！」

大声でそう言った!!

「先輩!!」

ふたりは声を出して泣き出した。

私をはじめバーの店員もなぜか感動のもらい泣き、まさかこんな展開になるうとは。